

4 事業創出活動

□ 産業振興分野

地場産業再生研究会

本研究会は、滋賀県内地場産業の再生および活性化を目指して、地域ブランドの新構築をねらいとして、2010年7月に発足した。2010年度には、彦根仏壇産業活性化に向けて「仏壇塾」を企画提案し開講した。さらに仏壇以外の地場伝統工芸産業の活性化の方策を議論し、「地場産業再生MOTフォーラム」の開催につなげた。2011年度は、有志企業と共同で新概念商品の試作開発を進める「仏壇塾・開発実践プロジェクト」をスタートさせた。また、新たな取り組みとして、「新融合イン滋賀」研究会の構想と活動ロードマップを策定した。本年度は、「仏壇塾・開発実践プロジェクト」の推進と、「新融合イン滋賀」研究会の発足と活動着手に軸足を置き、活動した。「仏壇塾・開発実践プロジェクト」については、「彦根仏壇」の木工、漆塗、蒔絵、鋳金具技術等を活かした美しい蒔絵酒器に小型の電子冷温部（ペルチェ素子）を融合させた新概念酒器を企画提案するとともに、製品化を目指す仏壇企業を中心に、木工旋盤加工、電子冷温部設計・製造を担う協力企業からなる試作開発体制の構築を支援した。なお、「新融合イン滋賀」研究会の具体的活動については、本誌で別途、報告する。

地場産業再生研究会の推進体制は、社会連携研究センターの産業振興ユニットが実践メンバーとなり、社会連携研究センター長ならびに滋賀県立大学名誉教授 三好良夫氏が常任アドバイザーとして参画し、特定テーマのアドバイザーとして随時、その分野の有識者に参画いただく仕組みとしている。本年度も計6回の研究会を開催するとともに、臨時「地場産業再生研究会」に輪島漆芸美術館 館長四柳 嘉章氏にアドバイザーとして参加いただき、地場伝統産業（仏壇、漆塗り、彫刻、陶器）の若手経営者・工芸士と“伝統工芸をいかに次代に繋げてゆくか”のテーマで意見交換を行った。今後も地場産業活性化に係る実践的な取り組みを生み出すエンジンとして、その活動を継続していく予定である。

（文責 特任教授 山本 卓）

